

【評価実施概要】

事業所番号	4270103338
法人名	有限会社 すみれの里
事業所名	グループホーム すみれの里
所在地	長崎市稲佐町3番10号 (電 話) 095-833-2887
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成20年2月26日

【情報提供票より】 (平成20年1月24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年2月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	9 人	常勤	7人, 非常勤2人, 常勤換算4人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2 階建ての 1～2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	19,000円		その他の経費(月額)	円	
敷金	無				
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	200円	昼食	300円	
	夕食	400円	おやつ	100円	
	または1日当たり円				

(4) 利用者の概要 (1月24日現在)

利用者人数		6 名	男性 名		女性 6 名
要介護 1		2 名	要介護 2		2 名
要介護 3		1 名	要介護 4		1 名
要介護 5		名		要支援 2 名	
年齢	平均	83 歳	最低	76 歳	最高 90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	くぼいちろうクリニック、大平歯科
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

長崎の昔ながらの商店街に近い場所に位置し、設立当初から近隣とのつきあいが密な事業所である。町内のもちつき大会やバザーにも顔を出し、初詣やショッピングセンターへ行く事もある。近所の商店街には、毎日のように散歩に行き、顔なじみの関係ができています。利用者は積極的に家事(配膳や後片付け)に参加しており、職員と一緒に家庭のように暮らすという理念が実践されている。家族へは利用者の生活の様子が詳細に記入されている「すみれの里便り」を作り家族全員に送っている。運営者が看護師であるため終末期の対応も実績があり、重度化が進むグループホームの支援のあり方を実践している事業所である。
--

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目：外部4) 昨年度の改善項目である浴室の浴槽が深くて危ないとの指摘があり、検討したが改装費などの関係があり検討を継続中である。申し送りの際の確認のための印鑑は改善している。 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目：外部4) 職員全員が参加して意見交換をしたあと反映させるよう作成している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目：外部4, 5, 6) 運営推進会議は3ヶ月に1回開催している。会議で「外出の機会を作って欲しい」との意見があり、利用者、家族、職員が参加し、近くのホテルに1泊して皆で話し合う機会を設けコミュニケーションをはかる良い機会となった。他には部屋の照明が暗いという意見が出たため、床に明るい色のカーペットを敷き改善の工夫をしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目：外部7, 8) 日頃より少しの変化であっても家族に電話を入れて報告をしている。来所時はいつでも話を聞くようにしており、運営推進会議は意見を言いやすい雰囲気を作り、出た意見は反映させるよう努力している。ただし、個別の意見や苦情などの記録はなく、家族に知らせるべき事故報告が口頭で伝えるのみになっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目：外部3) 毎日の散歩は、商店街や公園、民生委員を務める理容室の前を通るため、顔なじみになっており商店街では皆さんから声をかけられる。地域清掃や納涼会、バザーなどにも参加して地域の方との触れ合う機会をつくっている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム設立にあたり、「地域の中の普通の家にこだわりを持ち、その中で普通の暮らしをして、地域とのつながりを持ちたい」「地域とのつながり、慣れ親しんだ環境の中で穏やかに暮らしてもらう」理念を作り、現在も実践に向けている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	昨年度の外部評価後、毎日の朝礼で理念を唱和している。玄関の入り口に理念を掲示し、家族の方にも見えるようにして理念が日常的に実践、取り組みがなされている。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎日の散歩は、商店街や公園、民生委員を務める理容室の前を通るため、顔なじみになっており商店街では皆さんから声をかけられる。地域清掃や納涼会、バザーなどにも参加して地域の方との触れ合う機会をつくっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の外部評価での改善すべき点を職員全員で話し合い改善シートを作成し、改善に取り組んでいる。中でも地域との交流を以前にも増して積極的に行い、地域の店との関わりが密になってきている。自己評価は職員からの意見を聞き、組み込んで作成している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3ヶ月に1回開催している。会議で「外出の機会を作って欲しい」との意見があり、利用者、家族、職員で近くのホテルに一泊し、皆で話し合う機会を設けコミュニケーションをはかる良い機会となった。他には部屋の照明が暗いという意見が出たため、床に明るい色のカーペットを敷き改善の工夫をしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所における問題や悩みなど、介護保険課に相談しており、利用者が暮らしやすくなるように連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の請求書を送る時に、一人ひとりの日々の暮らしを詳しく記載した便りを家族全員に郵送している。預かり金の収支は金銭出納帳に記載し、領収書の原本を保管して毎月コピーを送っている。一年の会計監査が終わった時点で領収書原本は家族に渡している。	○	金銭出納帳の家族確認は、同意だけではなく確認した証としての押印があることが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より少しの変化であっても家族に電話を入れて報告をしている。来所時はいつでも話を聞くようにしており、運営推進会議は意見を言い易い雰囲気を作り、出た意見は反映させるよう努力している。ただし、個別の意見や苦情などの記録はなく、家族に知らせるべき事故報告が口頭で伝えるのみになっている。	○	家族への利用者の状況報告及び意見交換は書類として記録し保管することが望まれる。特に苦情や意見は事業所の回答、対応までを記録し保管すること、事故報告などは書類で報告することが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が外出するときは「今から行ってきます」と日頃から利用者が寂しくないように会話に心がけている。新人職員は利用者それぞれに紹介し、さりげなく触れ合い馴染んでいくように工夫している。家族には面会時に報告、紹介をして不安がないように配慮している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	親交のあるグループホーム同士で勉強会を開催している。主に職員優先だがパートも参加している。外部講師を招くこともあり、特に高齢者の口腔ケアの研修後は実践の効果が出ており、利用者の体調が良くなってきている。職員のスキルをあげるため、個別目標をたて技術試験などのバックアップを図る努力がなされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム同士の勉強会で見学に行ったり、訪問を受けたりの交流がなされている。研修会で学んだことの中から実践できることを行っている。今後は全体のグループホームの研修にも参加することを考え、質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	いきなりサービスを開始するのではなく、入居前にご家族と相談し、先ずは見学して、体験入居をしながら徐々に慣れるようにしている。家族が遠方の場合は、家族と連絡を密にとりながら職員が日々寄り添い利用者の不安を取り除くなどして工夫している。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を人生の先輩とする尊敬の意を職員全員で共有しており、利用者の得意な分野を活かし、又職員が教えてもらうことも多い。職員も利用者も同じ人間としてお互い支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月1度の会議の中で職員が利用者の状態を話し合い共有化している。言葉の不自由な方の場合、日々の行動や表情から汲み取り把握するようにしており、思いや希望が少しでも把握できるよう努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	職員は各々が日々の記録を記載しており、その記録を全員が共有化している。毎月10日頃にパートを含む職員全員で介護計画を作成している。ただし、家族からの意見や希望の聴取、同意を得た書類が確認できない。	○	介護計画は利用者の日々の暮らしの基本となるものであり、家族や医療機関の意見等を反映させよりよい計画を期待したい。また、その意見の記録、家族確認の同意にかかる押印が望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間の見直しは3ヶ月に1度行っており、ケアプランは利用者に承認をもらっている。状態が変化した際にはその都度現状に応じて新たな見直しを作成している。ただし、家族に変更したプランを渡して説明をし、確認した書類を保管することはしていない。	○	ケアプランを家族への説明し了解を得ることが望まれる。本人が理解しづらい内容や目標等を本人の代わりに家族が説明を受け確認する仕組みを確立することで家族との信頼関係も今以上に取れると期待したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買物は利用者の希望に応じて一緒に店に同行したり、外食希望が多くなると近隣の飲食店に外食に出掛けている。毎日の散歩も含め利用者、家族の要望に柔軟に対応している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回は提携医療機関から往診を受けている。利用者それぞれのかかりつけ医の受診は、家族の協力を得て行っている。	○	かかりつけ医の受診支援を事業所が行うことができないか検討することを期待したい。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期の方針についての指針は作成しており、家族には入所の際に話し同意書を取っている。今までにホームで看取った実績があり、職員も理解しており、医師との連携を密に対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の入社の際には、個人情報の取扱いについての誓約書を取っている。医療機関への診察やサービス担当会議において、個人情報を提供する事については、「情報提供同意書」を家族と取り交わしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調に合わせて、買い物や近所の公園などに散歩に出かけている。朝食の時間も強制しておらず、それぞれの好きな時間に食べてもらっている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、リビングで職員も一緒に食べており、家族のようななごやかな雰囲気である。配膳や後片付けに積極的に利用者が参加し、利用者の好物の刺身が食卓に並ぶ事が多く、また好きなものを聞いてその日の献立を決めるなど利用者中心にすすめている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、週2回行われている。入浴日以外は、清拭を行っている。入浴に関しては、本人の体調を見ながらおこなっている。ただし、浴槽は一般の民家で使用されているもので、床面から高く設置されており、入りづらさを軽減するための補助具の取り付けはない。	○	入浴回数が週2回と少ない為、回数を増やされる事が望まれる。ハード面では利用者の負担を軽減するような補助具等の工夫が望まれる。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者には洗濯ものたたみや野菜の下ごしらえ、ぞうきん作り、食器ふきなど役割を持ってもらいその日の気分に沿って支援している。食事の後には、スタッフ全員とトランプを楽しんだりとなごやかな雰囲気があり、利用者の気晴らしや楽しみごとの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者のきぼうに沿い、日頃は近所の商店街、公園に散歩に行く事が多く、周辺の人びととの日常会話も利用者の楽しみとなっている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけないケアを実践している。部屋にはネームプレートを付けて、間違いを防いでいる。日頃近所の商店街に散歩に行く事で、顔なじみとなっており、一人で外出していた利用者を見つけてくれた事がある。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	消防署への通報要領を備え、緊急連絡網を壁に貼っている。年に1回は避難訓練を行っており、直近では消防署の協力のもと実施されている。緊急時のマニュアルも備えている。周辺地域にはお知らせをし参加を呼びかけている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事と水分の量は、記録を残している。看護師が、介護日誌を参考にして個人別の摂取量を把握するよう配慮している。水分は、食事以外では10時、3時のおやつ時、外出から戻った時には必ず摂取するよう心がけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家を改造して作られたホームである為、若干照明が暗いというハンデがあるが、食堂のテーブルの下に明るい色のカーペットを敷くなどして工夫している。ただし、トイレがリビングに比べると温度差があり寒く感じられた。また浴室の浴槽が高く、利用者が入浴するには困難である。	○	換気のため窓を開けていた事もあるが、利用者の体調を考慮し、トイレ内の温度差を解消する工夫が望まれる。浴室の浴槽についても利用者が利用しやすい整備、工夫が望まれる。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用していた家具や愛用の品は持ち込んでよい旨家族へ伝えてあり、鏡台やたんす、家族の写真が置かれ、普通の家庭に暮らしている雰囲気である。ただし、一部屋を利用者2人で使うことは互いのプライバシーや居心地の良さの確保が困難と思われる。	○	居心地よく暮らす基本となるプライバシー保護のためにも一部屋に利用者1名という配慮が必要であり、なんらかの事情で2名になる際には利用者や家族の同意を得て、同意したことがわかる書類の保管が望まれる。

※  は、重点項目。